

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	H30.7.6
担当課名	環境農林課
担当グループ名	環境保全グループ
担当者名	

1 事業概要		(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	一般事業			
(1)事業名	ゴミ減量化対策事業費	(5)予算・財源等の別						
(4)第5次総振での位置づけ		(1)会計区分	一般会計					
①基本目標	生活環境の整備	(2)財源区分	町単独					
②大項目	ごみ対策	(3)予算科目	款	4	項	2	目	1
③中項目	ごみ減量・リサイクルの推進	(4)予算事業名	ゴミ減量化対策事業費					
④施策		(7)総合戦略						
⑤施策コード	4.3.3.0	掲載ページ	93	ページ				
(6)実施根拠		(1)総合戦略 (該当事業名)	無					
①事務分類(自治・受託)	自治事務	(3)事業期間	開始	不明	年		月	から
②根拠法令	小川町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	終了	未定	年		月	まで	

2 事業の目的・対象及び内容		(3)手段(内容・どのような取り組みか)	
(1)目的(何のために行うか)	廃棄物の排出抑制と適正処理を推進するため、地域性などを考えた独自の取組を模索しごみ減量化を図る。	・リデュース(排出抑制)を積極的に推進し、ごみの減量化を図る。 ・廃食用油の資源化を推進し、燃えるごみを減量する。 ・資源回収実施団体の育成と拡充を進める。	
(2)対象(誰に対して、何に対して行うか)	町民	(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)	
対象数	全町民	単位	人
		・物を買う時点から、ごみ排出を意識し、ひいてはごみ減量につながっていく。 ・廃食用油を捨てる際の紙くずや布くず等の可燃ごみが減少する。 ・資源回収団体による回収実施に伴う資源化率が向上する。	
(5)事業を取り巻く環境(社会環境、町民ニーズ等)、団体、議会等からの要望など			

資源循環型社会の構築を目指し、国・県・各自治体において様々な対策を実施しているが、当町においては、1人1日当たりの排出量はほぼ横ばいの状況である。
生ごみの資源化の拡充を求める声がある。

3 事業のコスト(実績・予算・決算)		(単位:千円)				
項目	(1)事業(内容)名称	ゴミ減量化対策事業費				
	決算・予算年度	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度予算
(2)事業費内訳	報酬	0	0	0	0	0
	報償費	0	0	0	0	0
	需用費	602	932	771	668	655
	役務費	0	0	0	0	65
	委託料	0	0	0	0	0
	その他	1,723	1,644	1,550	1,364	1,869
	直接事業費合計	2,325	2,576	2,321	2,032	2,589
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	0	445	0	0	428
	一般財源	2,325	2,131	2,321	2,032	2,161
	合計	2,325	2,576	2,321	2,032	2,589
(4)補助金名						
(5)人件費						
	投入職員数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	年間人件費	8,386	8,191	8,054	7,752	7,955
(6)総事業費		10,711	10,767	10,375	9,784	10,544
	サービス量(人)	32,863	32,356	31,784	31,226	30,776
	サービス単価 (単位)	325.9	332.8	326.4	313.3	342.6
		円/町民1人当たり				

4 指標の検証(活動指標・成果指標)		ゴミ減量化対策事業費				
指標名		単位	28年度決算	29年度決算	30年度予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量:回数、延長、面積等)						
指標名		目標値				
		実績値				
		達成率				
		目標値				
		実績値				
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度:人数、世帯数、件数、団体数、コスト指標等)						
指標名	ごみ1人1日当たり排出量 (総振目標指標p93) H32年度目標値 767g	目標値	g	767	767	767
		実績値	g	763	718	
		達成率	%	100.5	106.8	
	燃えるごみ1人1日当たり排出量 (総振目標指標p93) H32年度目標値 524g	目標値	g	524	524	524
		実績値	g	562	565	
		達成率	%	93.2	92.7	
(3)その他指標に現れない成果						
<p>廃食用油や牛乳パックの拠点回収、資源回収については町民にかなり浸透しており、今後のPR次第では、かなりの成果が期待できる。</p>						
5 事業評価						
(1)項目別評価						
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。	
必要性	事業の必要性	1	1 1 必要性が高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	1	1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他()	
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他()	
	手段の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他()	
効率性	コスト効率性 人員の効率性	2	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	2	1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他()	
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他()	
有効性	成果の向上	2	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他(成果が上がっているものとそうでないものがあるが、総合的判断として成果は上がっている。)	
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	1	1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他()	
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、問題点や課題を記載してください。)						
<p>当町における廃棄物の分別収集について、開始してから10年以上が経過し町民も慣れてしまっていることもあり、その重要性について意識が薄らいでいる感がある。 いま一度「混ぜればごみ、分ければ資源」ということをPRし、廃棄物の排出抑制に繋げたい。</p>						
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合				
評価主体	(1)一次評価 (担当課長)	(2)二次評価 (政策推進課長)	(3)最終評価 (町長)			
評価	2					
説明	ごみの分別やりサイクルに関するPRを行い、引き続きごみの減量化を図る必要がある。					